



2024年度 第1回入学試験問題

算 数

時 間 60 分

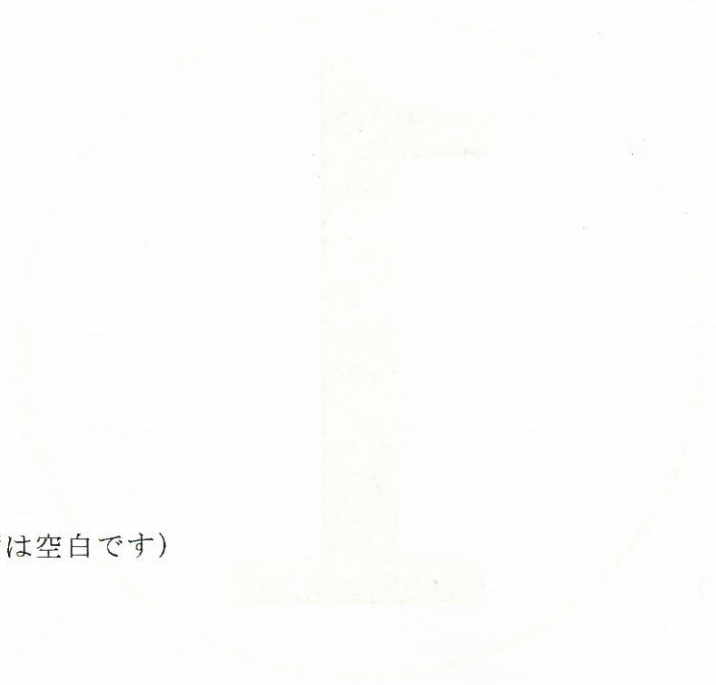
[注 意]

1. 放送で指示があるまで、この冊子^{さつし}を開いてはいけません。
2. この冊子は14ページまであります。ページが足りなかったり、順序がおかしかったり、また印刷が不鮮明^{ふせんめい}で読めない部分があったりした場合には、手をあげて監督^{かんとく}の先生に申し出なさい。
3. 問題についての質問は一切^{いっさい}受け付けません。
4. 計算にはこの冊子の余白を使いなさい。

昭和十三年七月一日

遺言

(このページは空白です)



(このページは空白です)

(このページは空白です)

(このページは空白です)

[1] 次の問いに答えなさい。

(1) 次の計算の $\square$ にあてはまる数を答えなさい。

$$3 \div \left\{ \left(\square + \frac{1}{3} \right) \times \frac{9}{11} \right\} - 1.375 = 1\frac{5}{6}$$

(2) 1 から 120 までの整数のうち、3 でも 5 でも割り切れない数の総和を求めなさい。

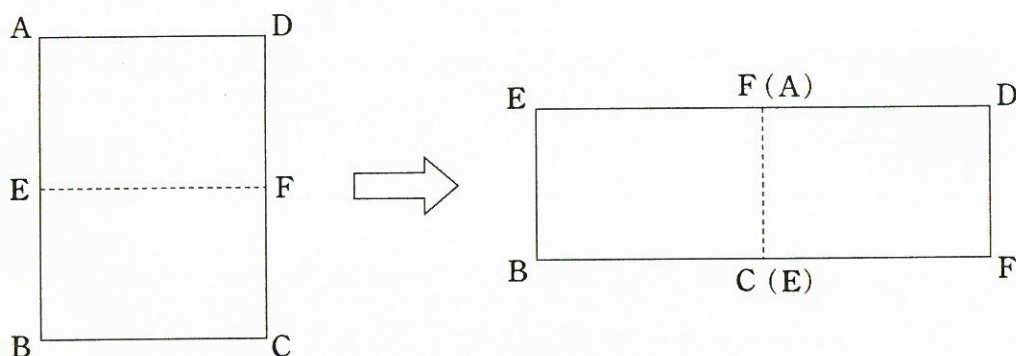
- (3) ある仕事を終わらせるのに A さんだけでは 60 日、B さんだけでは 50 日、C さんだけでは 40 日かかります。

この仕事を、1 日目は A さんと B さんがおこない、2 日目は B さんと C さんがおこない、3 日目は C さんと A さんがおこない、4 日目はまた A さんと B さんというように、3 日周期でおこなうと、始めてから何日目に終わりますか。

[2] 以下のように、長方形から新たな長方形を作る操作を定めます。

[操作]

長方形 $ABCD$ の縦の辺 AB と辺 CD の真ん中の点をそれぞれ E , F とします。
下の図のように、 E , F を通る直線で長方形 $ABCD$ を切って2つに分けて、辺 AE を
辺 FC に重ねて新たな長方形 $EBFD$ を作ります。



たとえば、縦 4 cm 、横 5 cm の長方形にこの操作をおこなうと、縦 2 cm 、横 10 cm の長方形になります。

縦 cm 、横 cm の長方形 R にこの操作を続けて何回かおこなうことを考えます。、 は整数であるものとして、次の問いに答えなさい。

(1) 長方形 R にこの操作を 7 回続けておこなったところ、正方形ができました。

: を最も簡単な整数比で答えなさい。

(2) 長方形 R にこの操作をおこなうごとにできた長方形の周の長さを計算したところ、
 8 回目の操作後に初めて周の長さが奇数になりました。 として考えられる整数
のうち、 3 けたのものは何個ありますか。

- (3) 長方形 R にこの操作をおこなうごとにできた長方形の周の長さを計算し、操作前と操作後の周の長さを比べて増加しているか減少しているかを調べたところ、4 回目までの操作の前後ではすべて減少し、5 回目の操作の前後では増加しました。

$\boxed{\text{ア}} \div \boxed{\text{イ}}$ の商として考えられる整数は何個ありますか。



[3] 図1のような、1辺の長さが10 cm の正方形4つからなるマス目が書かれた紙に、5点 O、P、Q、R、Sがあります。まず、図2のように1辺の長さが10 cm の立方体 ABCD-EFGH を辺 HE が OP に、辺 HG が OQ に重なるように紙の上に置きます。次に、以下の操作を順におこない、図3のように紙の上で立方体を回転させていきます。

(操作1) 直線 OQ を軸として立方体を90度回転させる。

(操作2) 直線 OR を軸として立方体を90度回転させる。

(操作3) 直線 OS を軸として立方体を90度回転させる。

(操作4) 直線 OP を軸として立方体を90度回転させる。

このとき、次の問いに答えなさい。ただし、円周率は3.14とします。

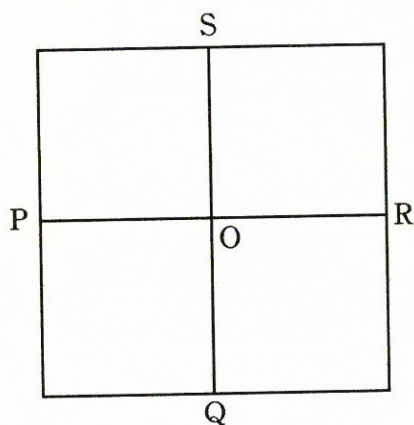


図1

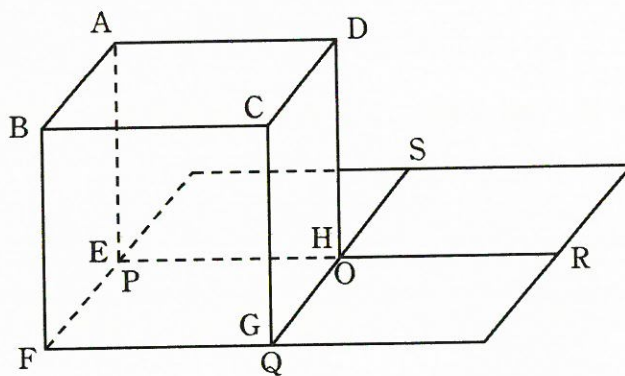


図2

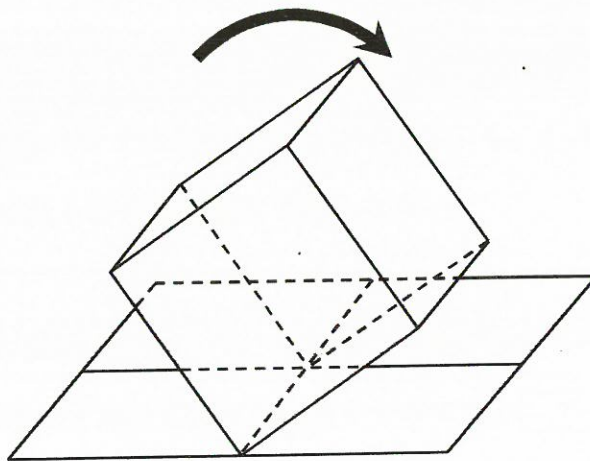


図3

- (1) (操作1)をおこなうとき、正方形 $ABFE$ が通過する部分の体積は何 cm^3 ですか。
- (2) (操作1)～(操作4)をこの順に続けておこなうとき、立方体 $ABCD-EFGH$ は元の位置に戻りますが、頂点は元の位置とは異なるものがあります。たとえば、頂点 F は頂点 ア の位置に、頂点 G は頂点 イ の位置にそれぞれ移ります。一方、頂点 ウ は4つの操作後に元の位置に戻ります。ア と イ にあてはまる頂点を、 $A \sim H$ の中からそれぞれ1つずつ選びなさい。また、ウ にあてはまる頂点を、 $A \sim H$ の中からすべて選びなさい。
- (3) (操作1)～(操作4)をこの順に続けておこなうとき、直線 FG が通過する部分の面積の総和は何 cm^2 ですか。

【4】 聖^{たかし}さん、光^{ひかる}さん、学^{まなぶ}さんの3人が、9 km 離れた^{はな}P地点とQ地点の間を移動します。

聖さんはP地点を出発してから9分間は毎分200 mで移動します。その後の4分間は毎分200 m、次の4分間は毎分150 m、次の4分間は毎分100 mで移動し、以降も4分ごとに毎分200 m、150 m、100 mと速さを変えながらQ地点まで移動します。

光さんは聖さんよりも3分30秒早くP地点を出発し、毎分150 mでQ地点まで移動します。このとき、次の問いに答えなさい。必要があれば、右のページの【下書き欄】を使用してもかまいません。

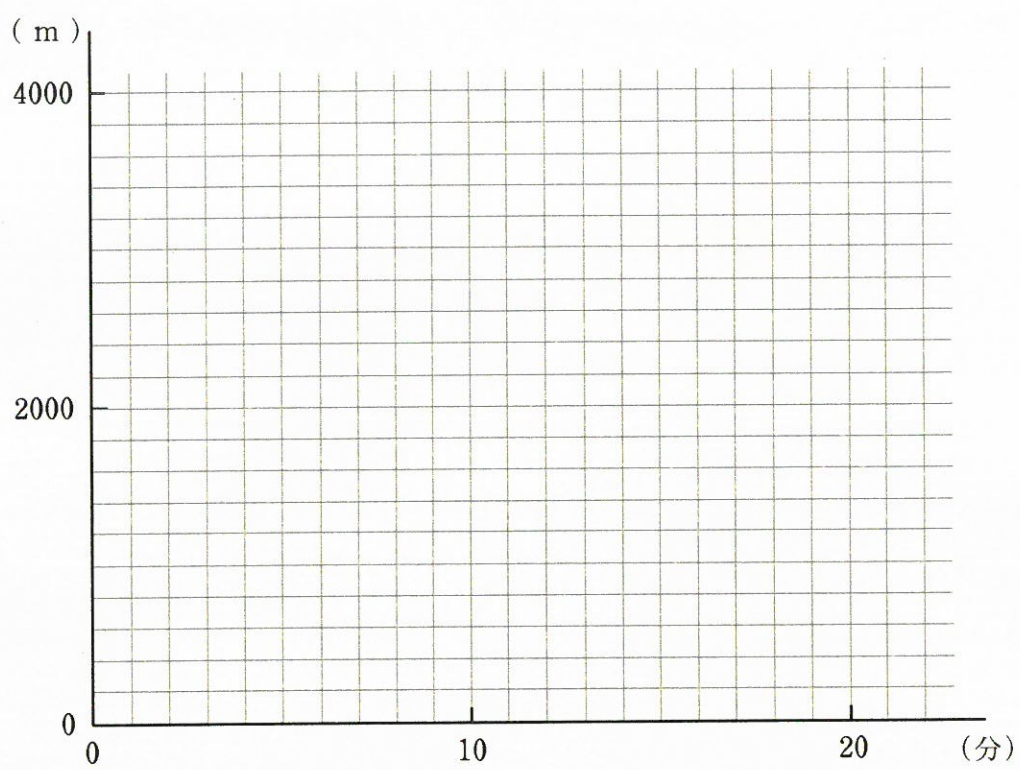
(1) 聖さんが出発してから21分間の移動の様子を、解答欄のグラフに図示しなさい。

ただし、グラフの1マスは、横軸が1分、縦軸が200 mとします。

(2) 聖さんがQ地点に到着^{とうちやく}する前に、聖さんのほうが光さんよりもQ地点側にいた時間の合計は何分ですか。

(3) 聖さんが出発してから20分後に、学さんがQ地点からP地点へ毎分80 m以上240 m以下の一定の速さで移動します。先に聖さんとすれ違い、その後、光さんとすれ違うとき、学さんは毎分 ア m より早く毎分 イ m 未満で移動すればよいことがわかります。 ア と イ にあてはまる数をそれぞれ答えなさい。

【下書き欄】



(このページは空白です)

(このページは空白です)

[5] 次の問いに答えなさい。ただし、解答は解答欄の番号を  で囲んで答えなさい。

(1) あるスーパーの1か月の食品の売り上げについて、前月からの増減で考えます。

たとえば、1月の売り上げが100万円だった食品が、2月に120万円になると20%の増加、逆に80万円になると20%の減少となります。

図1は、食品Aの2023年1月から4月の売り上げを折れ線グラフで表したものです。
なお、2月から4月までは一直線となっています。

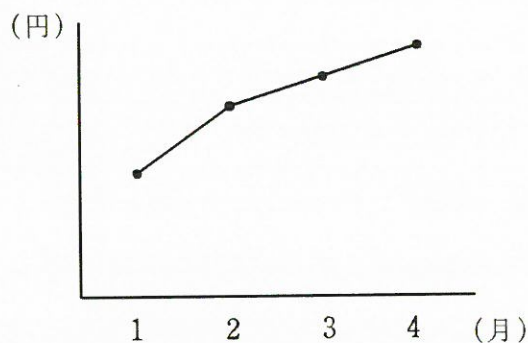
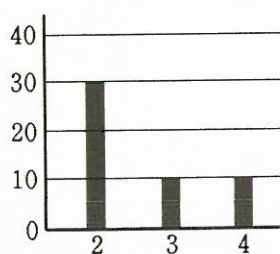
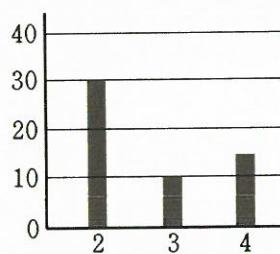


図1

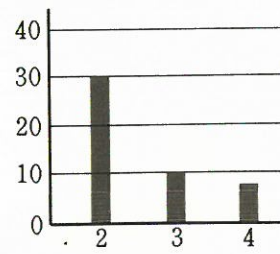
食品Aの2月から4月の売り上げについて、前月からの売り上げの増減の割合を表したグラフとして正しいものを、次の①～⑥の中から1つ選びなさい。



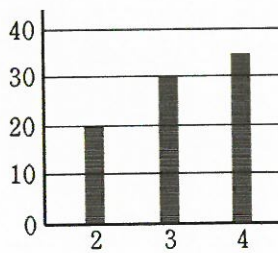
①



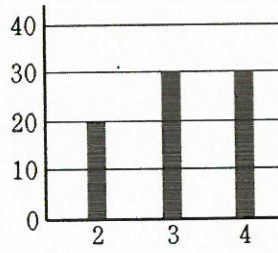
②



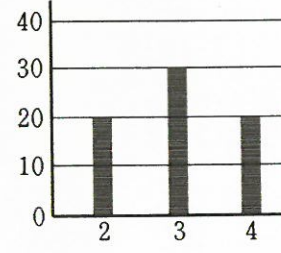
③



④



⑤



⑥

- (2) 図2は、ある食品Bの2月から5月の売り上げの、前月からの増減の割合を表したグラフです。なお、「-20」は前月から20%減少していることを表しています。

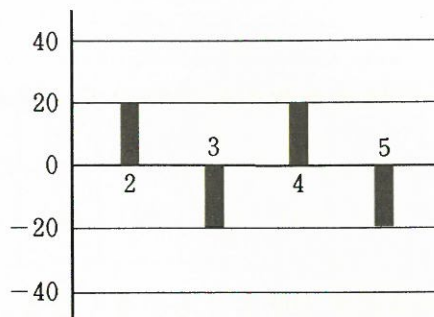
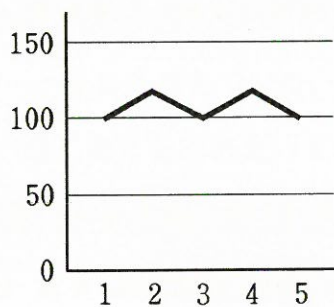
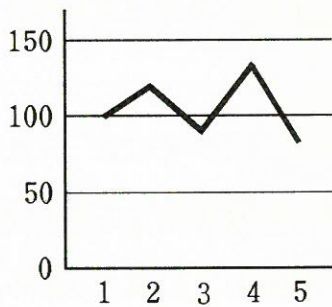


図2

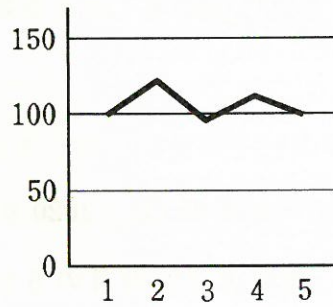
1月から5月の売り上げを表した折れ線グラフとして正しいものを、次の①～⑥の中から1つ選びなさい。



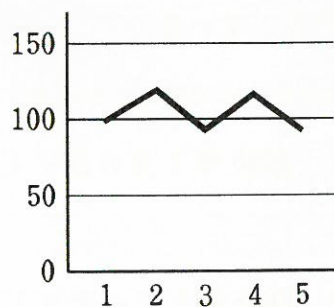
①



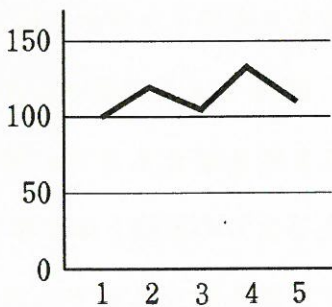
②



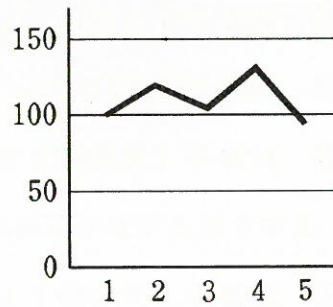
③



④



⑤



⑥

- (3) ある食品 C は、1 月の売り上げと 3 月の売り上げが同じ 100 万円で、2 月は、1 月と 3 月よりも売り上げが多いことがわかっています。つまり、2 月は 1 月と比べて ア % 売り上げが増加していて、3 月は 2 月と比べて イ % 売り上げが減少しています。

ア と イ にあてはまる数の組について、正しく述べた文を、次の①～⑥の中からすべて選びなさい。

- ① ア にあてはまる数は必ず 100 よりも小さくなる。
- ② イ にあてはまる数は必ず 100 よりも小さくなる。
- ③ イ にあてはまる数は 100 よりも大きくなることもある。
- ④ ア にあてはまる数は イ にあてはまる数よりも必ず大きい。
- ⑤ ア にあてはまる数は イ にあてはまる数よりも必ず小さい。
- ⑥ ア にあてはまる数は イ にあてはまる数よりも小さくなることもあり、
 ア にあてはまる数は イ にあてはまる数よりも大きくなることもある。

- (4) 食品 D は、2020 年 1 月に販売開始してから 2023 年 12 月に至るまで、毎月、売り上げが前月の 5 % ずつ増加しています。食品 D の売り上げについて述べた文としてふさわしいものを、次の①～④の中から 2 つ選びなさい。

- ① 2022 年 7 月には、2020 年 1 月の売り上げの 2 倍以上になっている。
- ② 2023 年 12 月になっても、2020 年 1 月の売り上げの 2 倍以上になることはない。
- ③ 2020 年 1 月の売り上げの 2 倍を超えるまでの期間は、2020 年 1 月の売り上げの 2 倍を超えてから 3 倍を超えるまでの期間とほぼ等しい。
- ④ 2020 年 1 月の売り上げの 2 倍を超えるまでの期間は、2020 年 1 月の売り上げの 2 倍を超えてから 4 倍を超えるまでの期間とほぼ等しい。

表 1 は、食品 E の 2022 年の月ごとの売り上げを示したものです。

表 1

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
売り上げ (万円)	100	120	120	130	120	160	180	200	160	130	120	80

(5) このデータについて正しく述べた文を、次の①～④の中からすべて選びなさい。

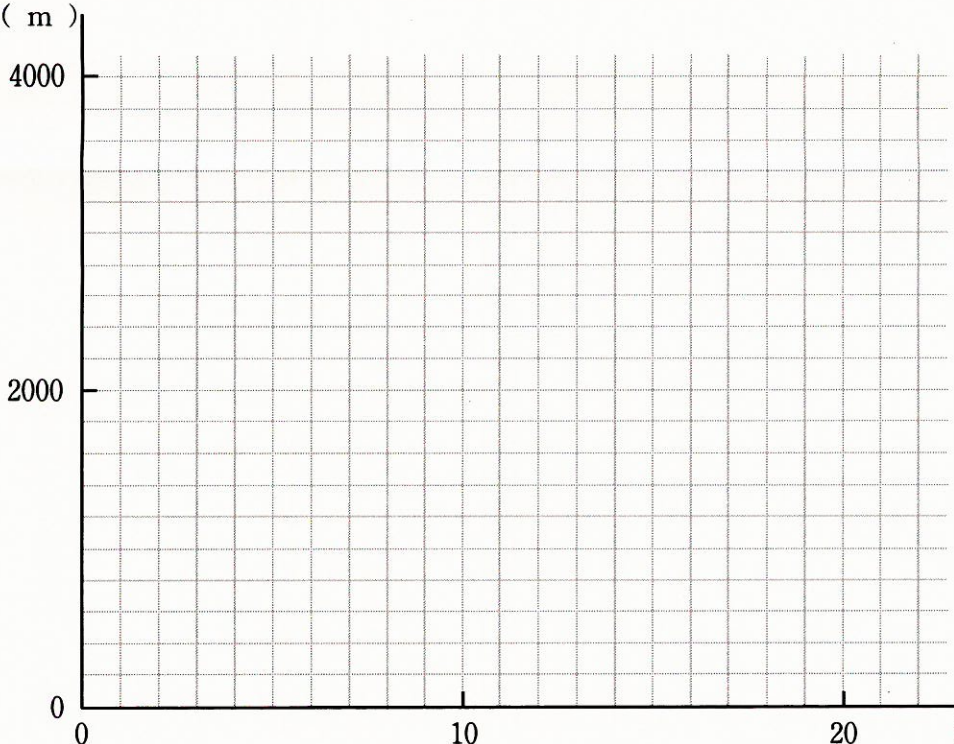
- ① 12 か月の売り上げの平均を上回る月の数は、半分の 6 である。
- ② 7 番目に売り上げの高い月は 12 か月の売り上げの平均を下回っている。
- ③ 12 か月の売り上げの平均を上回る月の売り上げの合計は、1 年間の売り上げの 40 %を超えている。
- ④ 売り上げの高い 2 つの月と、低い 2 つの月を除いた 8 つの月の売り上げの平均は、すべての月の売り上げの高いほうから 5 番目と 7 番目の間にある。

氏名

番
聖光学院中学校
2024 年度

第 1 回 入学試験 解答用紙 算数

【注意】 解答はすべてこの解答用紙に記入すること。

			小 計
[1]	(1)	(2)	
	(3) 日目		
[2]	(1) ア : イ = :	(2) 個	
	(3) 個		
[3]	(1) cm ³		
	(2) ア イ ウ		
	(3) cm ²		
[4]	(1) (m) 		
	(2) 分	(3) ア イ	
[5]	(1) ① ② ③ ④ ⑤ ⑥		得点合計
	(2) ① ② ③ ④ ⑤ ⑥		
	(3) ① ② ③ ④ ⑤ ⑥		
	(4) ① ② ③ ④		
	(5) ① ② ③ ④		